

# コスモス 11月号

第71巻 第11号

◆宮柊二カレンダー(56) 十一月の歌

折りて来て壺に活けたるわが庭の金木犀は妻  
の匂ひす  
歌集『純黄』

初出は「短歌研究」昭和56年1月号。この頃柊二は改築後の自宅に戻る。病に厳しく昔まれていたが、病室兼書斎の一室で養生し仕事を為した。その室内の金木犀であろう。「金木犀は妻の匂ひす」、この鮮やかさが、妻への濃やかな情をひびかせる。それは、金木犀の甘い芳香にいざなわれて、胸の底から突き上げてくる思いであったにちがいない。

因に宮英子は、この歌を詞書に据え、「はつはつに思ひぞ出づる木犀を妻のにはひと言ひし人はや」の一首を『八十八夜詠』に収めた。相聞挽歌である。

(奈良橋幸子)